

## 地域広聴事業 岡田地区 市長と市民の「こんだん会」 報告レポート

### 1 開催趣旨

岡田地区は、令和4年度から「地域づくりセンター機能強化モデル事業」のモデル地区として「若い世代との連携による地域づくりの推進」を重点項目として取り組んでいます。

今回のこんだん会では、「若い力、新たな視点で岡田をもっと元気にしていこう！！」をテーマに、信州大学の学生さんや岡田地区に移住・定住した方から岡田地区を元気にしていくための提案や魅力などについてお話しいただき、市長と意見交換を行いました。

### 2 日時等

- (1) 日時 令和4年7月28日(木)午後7時から午後8時40分まで
- (2) 場所 岡田公民館2階 大会議室

### 3 参加人員

臥雲市長ほか33名(発言者 18名、見学者10名、関係職員5名)



### 4 信州大学の学生によるプレゼン

#### (1) 信州大学医学部看護学専攻4年の学生

【テーマ:切れ目ない継続的な地域活動とソーシャル・キャピタル】

- ア 岡田地区の高齢者の方々は、家族や近所、友人との交流を大切にしており、その交流を通してこれからも自由に楽しく過ごしたい思いがある。
- イ 岡田地区の高齢者の8割以上の方が福祉ひろば事業に参加しておらず、社会的役割を感じていない人が多い傾向。
- ウ 出張ふれあい健康教室で健康学習会を実施し、人と話すことと認知症・フレイル予防との関係、また、人と話すことで岡田地区全体に健康の輪を広げていることを実感してもらう時間とした。
- エ 行政や民間団体、住民を含めたソーシャルキャピタル、結びつきや繋がりが土台となることで、住民全員が支え合いながら自らの手で生活し、自分らしく生きていける地域へと繋がる。

オ 多職種同士の相談、協力を滞らせないことで長期的に協力する体制ができ、信頼関係の構築や継続的な支援に繋がる。

I-4 健康学習会～目標・流れ～


目標1)  
①アイスブレイク  
→「人と話す楽しさ」を引き出す

- ・体操
- ・グループゲーム
- ・リズムゲーム

交通安全教室

目標2) ②クイズ  
目標3)  
③生活の振り返り・実感してもらう

- 1「人と話す・外に出る・誘い誘われ」をどれだけ行っているか
- 2何気ない行動が、自分や相手・岡田全体の健康の輪を広げている



何よりも  
**楽しさ**  
を意識！！

「支える側」と「支えられる側」ではなく  
住民全員が支援を受けながら自らの力で生活し、  
自分らしく生きていく地域



行政・民間団体・住民

ソーシャルキャピタルの醸成

『住民が、自分たちの課題を、自分たちの手で解決』

保健師は部品の1つとして...

【市長コメント】

- ・35 地区の現場に保健師が常駐できるような体制を作ることを進めている。
- ・一番近いところに健康に対する専門的な人がいることで、大きな安心感や支えになる。
- ・それぞれの地域事情をよくわかって相談を受けたり、サポートしたりできるような体制を作っていきたい。

【町会長コメント】

- ・福祉ひろばに来るための交通手段がない。特に塩倉町会～岡田町町会～伊深町会など、東西の交通手段がないため、それをどうするか考えていかななくてはならない。
- ・実際にお年寄りが多いが、芥子坊主に登ったり、いろんな形で頑張ったりして動いている人もいるため、世代や年齢などのカテゴリ一別に人を集めるにはどうしたらいいかやっていきたいと思う。

(2) 信州大学松本市の魅力発見ゼミ4班

【テーマ:恋と鯉で岡田に來い】

ア 岡田地区の魅力として、

- ① 景色が綺麗で、特に芥子坊主公園展望台からの景色は絶景
- ② 道端に広がる田園風景や岡田神社など、日本人に馴染みがある昔ながらの風景
- ③ 徐厄、縁結び、夫婦和合などの神様として多く点在する道祖神



～芥子坊主公園～

- カップルを呼び寄せるために枯れ松を再利用した縁結びグッズを用意する。
- 展望台からのきれいな景色とライトアップでロマンチックな雰囲気演出




～岡田神社～

- 神社の階段はとてもエモいので写真スポットになる
- 枯れた木を絵馬にして再利用
- 木の椅子と机があったので休憩スポットになる

イ 田溝池のベンチや芥子坊主公園のトイレが汚いため、使いにくく、長居しにくいのが課題  
ウ 各スポットを合わせて「恋」をキーワードにコース化し、穴場デートスポットとする。

- ① 田溝池に鯉を放流し、ライトアップやテラスレストランを設置
- ② 枯れ松を再利用した縁結びグッズを用意、芥子坊主公園をライトアップしてロマンチックな雰囲気 연출
- ③ 岡田神社の石階段はエモいので写真スポットにする。また、枯れ木を再利用した絵馬を用意

エ カップルやファミリーなどが思い出の場所として何回も訪れてくれる岡田地区になっていくことが移住・定住に繋がると思う。

#### 【市長コメント】

- ・同じ風景やスポットを見ている気付かないことを若い人達は良いものと気付いている。
- ・ベンチやトイレが汚いというのは大事なポイントで、トイレについて松本市は学校や公衆のトイレの改修や全洋式化をやっているため、芥子坊主公園のトイレ問題についても改めてちゃんと考えないといけない。
- ・「穴場デートスポット in 岡田」をこれだけに留まらず、実際何か形に残してもらえると嬉しい。

#### 【移住者コメント】

- ・岡田は、縄文時代から脈々と途切れることなく人が住み続けており、その土地を守ってきた人がいるので、新しく入ってくる人は、それを感じながら入っていかないといけない。
- ・仕事をバリバリやるとかは都会に行ったほうがいいが、子育てとか老後とか、1人で最後を迎える時など、圧倒的に田舎のほうが良いと思う。
- ・私は札幌育ちで旦那は東京育ちだが、都会だと全て自己責任を負う街なので地域で助け合うとか、ソーシャルキャピタルがそもそも無い。

### (3) 信州大学松本市の魅力発見ゼミ1班

#### 【テーマ:アートで地域をつなぐ】

ア 岡田地区は場所によって年齢層にバラつきがあり、地区の南側は新興住宅住民や信大生などの若年層や親子世代が多いのに対し、地区の北側は農家が多く年齢層が高い。

イ 子どもと高齢者の繋がりを持たせながら、コロナ禍の中しっかりと顔がわかり、長期的に住民が一体感を持つイベントとして、アートをテーマにしたワークショップを行う。

ウ 住民の顔を用いたアート作品を作りながら地区の住民の顔を覚えることもでき、作品を集めた顔パネルを作って展示する。

エ 地区の魅力的なスポットを撮影した物を基に、防水性のタイルを用いて製作し、写真の基になった場所などに展示する。

#### アート案

##### 案①：顔

複数つくり一枚の  
パネルにする例

→地区の住人の顔が  
集まり、アルバムの  
ような形に



オ ワークショップには複数回参加してもらい、展示する作品も保存していくことで地区の魅力が高まり、地区外から来た家族に過ごしやすいついてもらい、移住定住に繋げていく。

#### 【市長コメント】

- ・これも大学生の感性じゃないと出てこないアートの一つで、子どもでも簡単にできるということなので、いろんなところで面白く展開してもらえればと思う。
- ・子どもとお年寄りが交流する場、若い人がもっと立ち寄れる場として、地域づくりセンター、公民館、福祉ひろばが若い世代も含めて全世代に足を運んでもらえるような場になってほしい。
- ・今ある建物やスペースの使い方をもっと広げていき、特に若い世代に広げていくと、みんなにとってハッピーな状況に繋がるだろうと思う。

### 5 岡田地区への移住者の話

- (1) 塩倉町会に住んでいるが交通の便が悪いのを感じており、高齢者がタクシーを使って移動している姿をよく見るため、もう少し近くに小さいバスなどの公共交通があるといい。
- (2) 子どもたちを対象にしたイベントを開催しようとした時、地区内に周知をするため回覧板を回すことを相談した際、月1回と決まっていた回せない断られた。もう少し柔軟に対応してもらえればと思った。
- (3) 都会に住んでいると自分の親や祖父母からしか聞けないような話を地域のおじいちゃんおばあちゃんと話したり、困った時は町会長さんなどに相談ができたりして、人との繋がりが生まれていくのを感じる。
- (4) 東京には東京の良さ、松本には松本の良さがそれぞれあつたりするので、全部を変えなくてもピンポイントで変えていって住み良くしていけばいい。
- (5) 県外から友達などが来ると、松本は良いところだとみんな褒めてくれるので、上手くアピールができれば県外から来てくれる人はいると思う。

#### 【市長コメント】

- ・地域に新しく入ってくる人たちは、自己主張が強ければ上手いかず大切なものを壊すかもしれないし、住み続けている人たちは、受け入れるという気持ちを持つなど、両方の気持ちの向き合い方が大切。
- ・回覧板による情報共有などは、新しい世代の人たちが牽引しながら、例えば LINE を利用した情報伝達方法を作っていくなど、新旧世代がそれぞれ持つ強みや得意分野を上手くかみ合わせることで一体感の醸成に繋がると思う。

### 6 まとめ

#### (1) 町会連合会長コメント

よくお年寄りは「昔は良かった」と言うが、今はスーパーやお医者さんもあり、今のほうが良いと思う中「昔は良かった」というのが何なのかというのが、岡田の魅力を探るキーワードになるのではないかと。

信大や地域づくりセンターの皆さんなどが、岡田に住んでいる人たちが感じてないことを感

じてくれて、いろいろやろうとしてくれていることに感謝とリスペクトをし、自分たちの住んでいるところを考えてくれる人がたくさんいることを肝に銘じて活動していきたい。

## (2) 市長コメント

本日参加していただいた信大生の皆さんには、信大との距離が近くて子どもが増えているこの岡田をホットスポットだと思っていただき、是非関わりを強く、また、濃く継続してもらえたらと思う。

それが、松本市全体の町会と若い世代の関係や、公民館や福祉ひろばのあり方の見直し、子どもと高齢者の皆さんとの接点、居場所をどのように作っていくかということなど、全体的に繋がっていくような場であり、地区全体で考えるということに繋がっていくと思う。

トイレの問題や道路の問題など、山積しているが、優先順位が高いということがポイントだと思うので、地域の皆さんの創意と工夫と行動力で「岡田地区をもっと元気に！」ということに繋げていただきたい。

